

# 平成28年熊本地震に係る 活動報告書

平成29年3月



公益社団法人 全日本病院協会



一般社団法人 日本医療法人協会

## 平成 28 年熊本地震に係る活動報告書 目次

|                                         |    |
|-----------------------------------------|----|
| 第 1. 地震発生からの全日本病院協会・日本医療法人協会の動き .....   | 1  |
| 第 2. AMAT 派遣実績・活動報告 .....               | 18 |
| 1. 災害時医療救護班派遣実績                         |    |
| 2. 派遣チームからの活動報告書                        |    |
| 第 3. 被災地視察報告 .....                      | 46 |
| 1. 役員による視察報告                            |    |
| 第 4. 支援物資に係る報告 .....                    | 57 |
| 1. 支援物資に関する活動概要                         |    |
| 2. 支援物資をご提供いただいた医療機関等                   |    |
| 3. 支援物資を配布した医療機関等                       |    |
| 第 5. 被害調査結果報告 .....                     | 68 |
| 1. 熊本地震の被害状況に係る緊急電話調査の実施                |    |
| 2. 大分県の会員病院への被害状況調査の実施                  |    |
| 3. 熊本地震に係る被害状況調査の実施                     |    |
| 第 6. 義援金・見舞金等報告 .....                   | 70 |
| 1. 特定非営利活動法人ピープルズ・ホープ・ジャパン（PHJ）からの義援金贈呈 |    |
| 2. 全日病会員病院等からの義援金等                      |    |
| 3. 医法協会員法人への見舞金等                        |    |
| 第 7. その他 .....                          | 72 |
| 1. 熊本県からの感謝状の贈呈                         |    |

## 第1. 地震発生からの全日本病院協会・日本医療法人協会の動き

平成28年熊本地震発生からの当協会・日本医療法人協会の動きについて、主なものを時系列で以下に記す。(発災～5月末まで)

### 【全日本病院協会記録】

平成28年

- 4月14日(木)
- ・21時26分：熊本県熊本地方を震央とする、震源の深さ11km、気象庁マグニチュード6.5の地震(前震)が発生し、熊本県益城町で震度7を観測。
  - ・発生時より西澤会長、安藤副会長、加納先生が、電話にて複数回、被害状況や今後の方向性等について情報交換。
  - ・21時51分：全日病本部事務局に災害対策本部を仮設。九州地区のAMATをリストアップし、順次派遣対応可能か事前確認開始。
  - ・4月14日～15日未明にかけて、加納先生から、熊本県内の会員医療機関の被災状況を確認するよう指示あり。
  - ・クロノロ作成開始
- 4月15日(金)
- ・0時01分：正副会長、加納先生、猪口正孝先生へ事務局体制についての連絡
  - ・1時10分：山田熊本県支部長よりAMAT申請については、今晚様子をみて、夜が明けてから集まった情報より判断する旨連絡あり。
  - ・1時17分：AMAT派遣の事前確認で派遣可の回答施設に対して、待機の連絡。
  - ・1時48分：災害時被害調査票送信。
  - ・7時20分：加納先生より希望ヶ丘病院が倒壊の恐れがあるとの連絡を受け、希望ヶ丘病院へのAMAT派遣の連絡。
  - ・7時26分：ヨコクラ病院へAMAT派遣依頼。派遣メンバーの職種、氏名一覧のFAX依頼。
  - ・7時58分：織田副会長よりAMAT派遣の連絡。
  - ・8時05分：山田熊本県支部長より派遣準備状況の確認あり。加納先生より希望ヶ丘病院への派遣指示あり。織田病院、ヨコクラ病院、熊本機能病院、サザンリージョン病院が出動準備中と伝達。山田熊本県支部長よりAMATが希望ヶ丘病院に入った際の同院の対応状況についての連絡あり。
  - ・8時12分：ヨコクラ病院よりAMATメンバーリスト到着。出動は待機中。
  - ・10時24分：織田病院よりAMATメンバーリスト到着。

- ・10時36分：サザンリージョン病院よりAMATメンバーリスト到着。出動は待機中。
- ・10時41分：織田病院AMATより移動時に熊本県庁から熊本赤十字病院へ向かってDMATと合流してほしいとの連絡をうけ、現在移動中と連絡あり。事務局よりAMAT派遣については、全日病救急防災委員会よりの指示であり、会員病院支援を目的とした派遣であるため、県庁側へ移動先を希望ヶ丘病院へ変更する連絡をお願いできないかと回答。織田病院AMATから県庁へ確認すると回答あり。
- ・10時44分：安藤副会長より熊本県内の被害状況についての連携情報到着。
- ・10時47分：安藤副会長よりEMIS情報到着。
- ・10時50分：織田病院AMATより県庁側に確認したところ、医療政策課より、希望ヶ丘病院の避難は東陵高校へ177名の移送を完了しているため、行き先を希望ヶ丘病院ではなく、熊本赤十字病院へ変更してほしいとの連絡があったと報告あり。
- ・11時18分：西澤全日病会長と加納医法協会長が相談の上、全日本病院協会・日本医療法人協会同災害対策本部を正式に設置。
- ・12時41分：ヨコクラ病院より目的地を熊本赤十字病院 救急救命センターとし出発の連絡あり。
- ・12時55分：東京海上日動へ織田病院、ヨコクラ病院の保険適用についての確認。
- ・13時46分：加納統括副本部長へ現時点での出動班の確認及び待機班への待機解除についての確認。
- ・14時56分：AMATの宿泊先確保
- ・15時00分：AMAT待機解除の連絡開始
- ・16時30分：織田病院AMATより報告
- ・18時18分：災害対策本部設置及び会議開催についての案内送付。

- 4月16日（土）
- ・1時25分：震源の深さ12km、気象庁マグニチュード7.3の地震（本震）が発生。熊本県西原村と益城町で震度7を観測。
  - ・4時54分：西澤本部長より本部へ現状についての確認連絡。
  - ・6時03分：織田病院AMATより現況報告。
  - ・6時35分：白鬚橋病院AMATより、待機連絡。
  - ・7時14分：加納統括副本部長より阿蘇立野病院への支援が可能か確認の指示あり。
  - ・8時30分：阿蘇立野病院上村院長より病院の建物に亀裂が生じており、地震による道路の寸断、土砂崩れの危険性から、一般道を使用した搬送が困難なため、行政を通じて自衛隊等による搬送を依頼中。現状AMATからの支援を受ける状態にないとの連絡。

- ・ 8 時 40 分：阿蘇立野病院上村院長の連絡を受け織田病院 AMAT への支援依頼の中止連絡。
- ・ 11 時 00 分：加納統括副本部長来局。全日病事務局にある備蓄水・食料を支援物資として福岡県の田主丸中央病院（搬送拠点）へ搬送するよう指示。
- ・ 12 時 30 分：平成 28 年熊本地震に係る災害対策本部第 1 回会議実施。
- ・ 14 時 00 分：白鬚橋病院 AMAT、市比野記念病院 AMAT（支援物資搬入）について保険加入手続き。
- ・ 14 時 41 分：全日病職員（2 名）が全日病備蓄物資及び都内で確保した水（保存水 1.5ℓ150 本、天然水 2ℓ300 本、調理不要食（カレー等）400 食、乾パン 200 個、ビスコ 200 缶）を搬送するため、移動開始。
- ・ 17 時 43 分：全日病支援物資についてヨコクラ病院を集積病院に決定との連絡。
- ・ 18 時 55 分：熊本県内全日病・医法協の全ての病院に対して電話での状況確認結果報告。
- ・ 19 時 10 分：永生病院より AMAT 出動の連絡。
- ・ 19 時 17 分：会員病院へ支援物資一時集積病院をヨコクラ病院とした災害支援物資の提供依頼を連絡。
- ・ 20 時 50 分：国分中央病院、サザンリージョン病院 AMAT 保険適用申請。
- ・ 22 時 15 分：全日病災害救援物資搬送チーム、ヨコクラ病院到着。
- ・ 22 時 50 分：永生病院物資派遣チームが出発の連絡。
- ・ 23 時 57 分：加納統括副本部長が伊藤先生（医法協会長代行）と連絡を取り合い、伊藤先生が自院から持参した支援物資を田主丸中央病院の鬼塚先生と調整し、青磁野リハビリテーション病院へ搬送することを決定。
- ・ 24 時 00 分：ヨコクラ病院へ物資移動についての連絡。

- 4 月 17 日（日）
- ・ 0 時 15 分：伊藤先生が現地では水不足との情報を入手し、飲料水約 70 t を手配。
  - ・ 6 時 30 分：全日病災害救援物資輸送チームがヨコクラ病院へ物資の受取り。物資を青磁野リハビリ病院へ運送。
  - ・ 8 時 00 分：伊藤先生と総合大雄会病院の職員が支援物資を持参し、青磁野リハビリテーション病院へ到着。
  - ・ 8 時 39 分：青磁野リハビリテーション病院院長金澤先生と遅れて到着した白鬚橋 AMAT 大桃先生等が今後の対応についてミーティング開始。
  - ・ 10 時 05 分：霧島記念病院 AMAT より待機連絡。永生病院 AMAT 保険申請。
  - ・ 10 時 6 分：西澤本部長より大分県の被害状況調査の指示。
  - ・ 10 時 15 分：青磁野リハビリテーション病院にて支援物資の供給について

のミーティング。メンバーは伊藤先生（医法協会会長代行）、大桃先生（白鬚橋病院 AMAT）、金沢先生（青磁野リハビリテーション病院）と全日病事務局。

- ・ 10 時 40 分：熊本内での病院支援物資の集積場所をファインテラスせいじのとし、県外の支援物資は依然ヨコクラ病院へ依頼することが決定。
- ・ 12 時 40 分：山田熊本県支部長へ小児科医師の有無と AMAT の医師の数について連絡。現時点の AMAT の参集状況について伝達。
- ・ 13 時 05 分：大分県支部へ被害状況調査実施の確認。
- ・ 14 時 00 分：4 月 18 日（月）8 時 30 分から青磁野にて AMAT ミーティング開催の連絡。（先発：白鬚橋病院、赤穂中央病院、後発：南町田病院、永生病院、大雄会病院、南多摩病院）
- ・ 14 時 20 分：青磁野記念病院ライフラインについて連絡。（水は断水状況で電気は通常。現在は事務局から補給した水で対応可能。18 日に大雄会、市比野記念病院等より水 5 万本、非常用食料 2 万 5 千食が到着予定。）
- ・ 16 時 11 分：大分県支部各病院へ被害調査を送付。
- ・ 16 時 38 分：厚労省医政局地域医療計画課へ AMAT の派遣状況連絡。
- ・ 16 時 45 分：猪口正孝副本部長より連絡、①水、食料不足について会員病院へ周知、②宇城総合病院、東病院、矢部広域病院の医療支援の必要について、本部からの確認依頼。
- ・ 16 時 58 分：宇城総合病院への医療支援について連絡。明日、現地 AMAT が訪問予定。
- ・ 17 時 02 分：東病院への医療支援について連絡。DMAT 活動中、人材面では問題なし。食糧不足の危惧あり。
- ・ 17 時 05 分：矢部広域病院の医療支援について連絡。院内体制で対応済、医療支援の必要なし。
- ・ 17 時 37 分：青磁野リハビリテーションへ織田副会長が支援物資を直接保管場所へ搬入の連絡。
- ・ 17 時 40 分：猪口正孝副本部長より大桃先生からの連絡。①明日 8：30 より青磁野リハビリテーションで参集した AMAT 活動調整会議を開催、②被災地の医療ニーズについては、現地で大桃先生が情報収集をする、③宇城総合病院からは継続的な医療支援の可能性も示唆されており、一定期間の AMAT 派遣について確認が必要。（明日大桃先生が宇城総合病院で確認）現在東京 DMAT 10 隊出動に対し、AMAT の活動との調整について加納統括副本部長が直接 DMAT へ申し入れ。
- ・ 18 時 00 分：本部からの青磁野リハビリテーションへの支援物資搬送終了。
- ・ 18 時 20 分：織田副会長より支援物資到着連絡。
- ・ 18 時 30 分：猪口正孝副本部長より支援物資の運搬の連絡。

- ・ 20 時 56 分：支援物資集積場所についての確認連絡。
- 4 月 18 日（月）
- ・ 8 時 58 分：一時集積場所のヨコクラ病院における物資の集積状況報告。
  - ・ 9 時 30 分：西澤本部長よりヨコクラ病院へ集めた支援物資の対応及び義援金対応についての連絡。
  - ・ 9 時 35 分：ピープルズホープジャパン（PHJ）より支援について連絡。
  - ・ 9 時 45 分：猪口正孝副本部長より JMA T 等の動きについて連絡。
  - ・ 10 時 00 分：サザンリージョン病院物資搬送部隊帰宅の報告。
  - ・ 11 時 00 分：織田副会長より、ヨコクラ病院に集まった支援物資の熊本への搬送について、トラック協会と調整の連絡。
  - ・ 12 時 00 分：PHJ への支援についての回答。
  - ・ 12 時 45 分：本庄内科病院より被害報告。
  - ・ 13 時 40 分：支援物資リストの確認依頼。
  - ・ 13 時 48 分：今後の AMAT の活動方針等決定事項の連絡。① AMAT のミーティング会場は、青磁野リハビリテーション病院第 6 診察室、② 支援物資の納品先は、医療法人金澤会 サ高住 ファインテラス せいじの
  - ・ 14 時 08 分：AMAT 宿泊施設の連絡。
  - ・ 14 時 21 分：神野副会長よりヨコクラ病院から熊本への支援物資搬送の件についての連絡。
  - ・ 14 時 35 分：青磁野リハビリテーション病院より全日病から持参した支援物資配給終了の連絡。
  - ・ 14 時 42 分：東京海上日動より保険適用について連絡。
  - ・ 15 時 35 分：市比野記念病院より活動予定の報告。
  - ・ 16 時 00 分：AMAT の進捗状況報告。
  - ・ 16 時 39 分：福岡県トラック協会へ田主丸中央病院、ヨコクラ病院にある支援物資を青磁野リハビリテーション病院へ搬送するトラック調整を依頼。
  - ・ 16 時 30 分：大桃先生より市内の病院、保健所、熊本日赤、東病院、宇城総合における医療ニーズを確認中の連絡。
  - ・ 17 時 20 分：ヨコクラ病院にある支援物資搬送について、福岡県医師会がトラック手配する旨の電話連絡。
  - ・ 18 時 30 分：西澤本部長より全日病支援物資一時集積病院について、ヨコクラ病院から福岡県医師会へ変更するよう指示。
  - ・ 19 時 00 分：全日病支援物資一時集積場所について、福岡県医師会となったことを連絡。
  - ・ 19 時 20 分：災害時本部事務局体制についての打合わせ。
- 4 月 19 日（火）
- ・ 青磁野リハビリ病院へ事務局より 1 名出発。
  - ・ 9 時 30 分：ヨコクラ病院にある支援物資について、福岡県医師会よりトラック手配の連絡。

- ・ 9 時 44 分：熊本空港再開等についての連絡。大桃先生から、東病院は D M A T が本日引き上げ、白鬚橋 A M A T が引き継ぐ。宇城総合病院も A M A T ニーズありの連絡。
- ・ 9 時 51 分：猪口正孝副本部長より、東病院への継続的な A M A T 派遣予定、及び 4/21 以降の A M A T 派遣について各病院へ確認するよう指示。
- ・ 10 時 08 分：青磁野リハビリテーション病院にある支援物資対応の職員不足による物資の配給の停滞についての連絡。
- ・ 10 時 19 分：熊本市東区、北区の避難所に対する巡回診療について、東京 J M A T を派遣が東京都医師会で検討中のため、A M A T の派遣は保留の連絡。東病院、宇城総合病院 A M A T ニーズあり。霧島記念病院 A M A T の出動準備の連絡。
- ・ 10 時 22 分：日医より J M A T 派遣についての情報連携。
- ・ 10 時 48 分：福岡県トラック協会より田主丸中央病院の支援物資の搬送トラック確保の連絡。
- ・ 11 時 19 分：永生病院第二次派遣メンバー及び A M A T 及び事務局の保険の手続き。継続 A M A T の人定事項、連絡先について確認依頼。
- ・ 11 時 37 分：医法協との会員についての連絡調整。
- ・ 11 時 41 分：成川和歌山県支部長より和歌山県支部内会員に向けての熊本地震災害への救援物資依頼発送の報告
- ・ 12 時 55 分：A M A T 出動の可否における調査送付の報告。
- ・ 13 時 18 分：尾中病院より支援物資をヨコクラ病院へ持参の報告。
- ・ 13 時 39 分：市比野記念病院と永生会 A M A T 保険を適用手続き完了。
- ・ 13 時 47 分：災害対策本部事務局体制図送付。
- ・ 14 時 00 分：ピープルズホープジャパン（PHJ）来局
- ・ 15 時 40 分：支援物資送付先の変更についての連絡依頼。ヨコクラ病院から福岡県医師会へ変更。
- ・ 16 時 00 分：加納統括副本部長より熊本空港の貨物ターミナルにおける一時荷受け対応について確認。
- ・ 16 時 20 分：金澤先生よりファインテラスせいじのへ搬送前の支援物資リストの依頼。
- ・ 16 時 40 分：田主丸中央病院からのファインテラスせいじへの荷物リストをファインテラスせいじのへ F A X
- ・ 17 時 42 分：福岡県医師会よりファインテラスせいじの物資リスト送付依頼。
- ・ 17 時 51 分：A M A T 出動調査結果送付。
- ・ 18 時 50 分：白鬚橋病院の引継 A M A T の件（東病院）、宇城総合病院への A M A T 派遣について連絡。
- ・ 19 時 52 分：東日本大震災時の被災支部・会員への予算等措置についての



連絡。

- 22 時 26 分：厚労省医政局地域医療計画課からの連絡。4/21 以降の AMAT チーム編成及び対応可能班数の問合せ。
- 4 月 20 日（水）
- 7 時 31 分：熊本地震に対する義援金に係る税金の扱いについて連絡。
- 9 時 45 分：熊本地震に係る支援物資の提供のお願い及び支援物資送付先の変更について連絡。
- 9 時 54 分：熊本県医療政策課より全国知事会からの医療支援で対応のため、AMAT への派遣要請は一旦保留の連絡あり。
- 10 時 15 分：青磁野リハビリテーション病院にある物資を熊本県の全日病・医法協の会員病院にリスト公開の連絡。
- 10 時 35 分：飲料水の提供に係る会員への連絡メールについての連絡。
- 10 時 54 分：猪口正孝副本部長より熊本の菊南病院の支援へ向かう連絡。
- 11 時 20 分：ファインテラス青磁野より県医師会リストデータを送信。
- 11 時 29 分：菊南病院より AMAT 必要無の連絡。
- 12 時 48 分：支援物資リストの送付。
- 12 時 58 分：永生会 AMAT の活動報告。
- 13 時 05 分：飲料水の提供に係る会員への連絡文の一斉配信
- 14 時 00 分：金澤先生が熊本県医師会と調整、搬送ルールの決定。
- 14 時 16 分：東病院と宇城総合病院における AMAT 活動予定等について連絡。
- 16 時 55 分：東病院、宇城総合病院への AMAT 派遣について連絡。
- 17 時 38 分：熊本被災地での活動報告（安藤副本部長より写真提供）
- 18 時 25 分：厚生労働省へ現時点の AMAT 活動報告
- 18 時 52 分：平成 28 年熊本地震の被災者に対する既往歴等の提供について連絡。
- 18 時 56 分：厚労省医政局地域医療計画課より阿蘇地方への AMAT 派遣の件について、当面の派遣要請はない旨連絡。
- 19 時 13 分：南部病院より送付支援物資一覧送付。
- 20 時 09 分：JMAT 活動状況 14：00 時点報告送付。
- 4 月 21 日（木）
- 10 時 08 分：熊本市医師駐車場へ納品する飲料水リストとモニター写真到着。
- 9 時 42 分：赤穂中央病院 AMAT からの状況報告①
- 11 時 22 分：支援物資リストの送付。
- 11 時 30 分：南多摩 AMAT より活動報告。
- 12 時 30 分：赤穂中央病院 AMAT からの状況報告②
- 13 時 00 分：JMAT の活動状況についての報告
- 13 時 08 分：阿蘇立野病院の状況についての情報連携。
- 13 時 32 分：平成 28 年熊本地震の被災者に対する既往歴等の提供について

て送付。

- ・ 13 時 43 分：ファインテラスより不足品リストと活動モニター到着。
- ・ 14 時 05 分：霧島記念病院より AMAT 日程についての連絡。
- ・ 14 時 52 分：福岡県医師会へ不足品について、ファインテラスせいじへの搬送依頼。
- ・ 15 時 02 分：ピープルズ・ホープ・ジャパン（PHJ）からの情報連携。熊本地震災害支援は「全日病」への募金活動のみ実施。
- ・ 15 時 10 分：東病院での AMAT についての連絡。
- ・ 15 時 56 分：当協会の活動状況について報告。
- ・ 16 時 12 分：東病院での AMAT の日程、チーム編成についての報告。
- ・ 17 時 12 分：日本医師会から JMAT の活動状況についての報告。
- ・ 19 時 06 分：日本医師会からの医療機関間の医薬品等の融通についての情報提供。
- ・ 19 時 08 分：日本医師会からの熊本地震に関する熊本市以外の避難所の一覧の提供。
- ・ 19 時 26 分：赤穂中央病院 AMAT からの状況報告③（最終報告）
- ・ 19 時 45 分：平成 28 年熊本地震に対する義援金依頼の連絡。
- ・ 20 時 05 分：平成 28 年熊本地震における病院、診療所、薬局又は地方公共団体の間での医薬品等の融通について送付。

4 月 22 日（金）

- ・ 9 時 37 分：高野病院の被害状況について報告。
- ・ 10 時 13 分：ファインテラスせいじの支援物資についての報告
- ・ 10 時 33 分：熊本地震に係る当協会の活動状況について送付。
- ・ 10 時 40 分：織田副会長からの現地の情報連絡。
- ・ 11 時 07 分：支援物資リストの送付。
- ・ 11 時 20 分：永生及び南多摩病院第三次派遣メンバーの情報到着。
- ・ 12 時 17 分：青磁野リハの事務部長と打合せ報告
- ・ 12 時 54 分：織田副会長から福岡、佐賀、長崎県の支部長会議実施について連絡。
- ・ 13 時 36 分：福岡県医師会に支援物資について確認。
- ・ 14 時 04 分：東病院にて活動中の永生病院 AMAT より報告。
- ・ 16 時 49 分：支援物資受付の中止についての連絡文について承認。
- ・ 17 時 08 分：今後のファインせいじの の支援物資受入体制調整について連絡。
- ・ 17 時 11 分：熊本地震に係る支援物資受付の中止について連絡。
- ・ 17 時 41 分：(情報提供) 平成 28 年熊本地震による被災者に係る一部負担金等の取扱いについて

4 月 23 日（土）

- ・ 8 時 09 分：ファインテラスせいじの支援物資リストについての報告。
- ・ 11 時 07 分：支援物資リストの送付。

- ・12時08分：加納統括副本部長（医法協会長）が熊本地震における被災地の支援物資の状況及びAMAT活動状況の視察のため、現地入り。
  - ・12時15分：加納統括副本部長が青磁野リハビリテーション病院（ファインテラスせいじの）院長の金澤先生、永田事務部長等から現地説明。
  - ・13時13分：加納統括副本部長が東病院院長の東先生から現地説明。
  - ・15時00分：加納統括副本部長が宇城総合病院院長の江上先生から現地説明。
- 4月24日（日）
- ・9時09分：ファインテラスせいじの支援物資リストについての報告。
  - ・10時40分：支援物資リストの送付。
  - ・14時00分：厚生労働省医政局地域医療計画課より連絡。現在のAMAT派遣状況と看護師支援の要望の是非についての問い合わせ。
  - ・17時15分：西澤本部長よりJMAT保険適用について確認指示。
  - ・17時35分：厚生労働省医政局総務課より現在のAMAT派遣状況についての問い合わせ。
- 4月25日（月）
- ・8時09分：ファインテラスせいじの支援物資リストについての報告。
  - ・9時36分：支援物資リストの送付。
  - ・10時20分：厚生労働省医政局総務課より、東日本大震災の際の看護師派遣の実績について問合せ。
  - ・11時37分：避難所情報について連絡。
  - ・13時50分：JMAT保険について報告。
  - ・15時21分：AMAT派遣状況 4/25 現在を報告。
  - ・16時19分：日本医師会より熊本地震に係る避難所についての情報提供。
- 4月26日（火）
- ・7時46分：ファインテラスせいじの支援物資リストについての報告。
  - ・10時11分：山田熊本県支部長より看護師の派遣要請について連絡。
  - ・10時28分：支援物資リストの送付。
  - ・10時47分：山田熊本県支部長より看護師の派遣要請について連絡。
  - ・13時50分：本庄内科病院より御礼状あり。
  - ・17時51分：厚労省より現在のAMAT隊の活動状況について問い合わせ。
  - ・20時30分：熊本地震における避難所ニーズに対応できていない事項の把握について
- 4月27日（水）
- ・7時44分：山田熊本県支部長よりの阿蘇温泉病院への看護師派遣についての連絡。
  - ・9時32分：ファインテラスせいじの支援物資リストについての報告。
  - ・10時10分：支援物資リストの送付。
  - ・10時30分：熊本県医療政策課へ阿蘇温泉病院への看護師派遣について連絡。
  - ・11時00分：第2回災害対策本部会議開催。
  - ・18時35分：阿蘇温泉病院へ看護師の状況について連絡の報告。

- 4月28日(木)
- ・8時30分：高野病院被害状況報告。
  - ・9時30分：日本看護協会へ阿蘇温泉病院への災害派遣ナースの対応について確認。
  - ・11時00分：支援物資リストの送付。
  - ・14時01分：阿蘇温泉病院への看護師派遣について、熊本県医療政策課看護班より、日本看護協会の災害派遣ナース調整の連絡。
  - ・16時44分：熊本市医師会駐車場の飲料水の在庫についての連絡。
- 4月29日(金)
- ・10時25分：支援物資リストの送付。
  - ・13時15分：厚労省医政局へAMA Tの派遣状況について連絡。
  - ・15時09分：大分県中部を震源とするM4.4の地震発生。大分県由布市で震度5強観測。
  - ・15時25分：厚労省医政局へ阿蘇温泉病院からの看護師派遣依頼について、日本看護協会の災害派遣ナース2名の派遣で対応する旨を説明。
  - ・16時15分：全日病大分県支部に対し、被害調査をFAXにて実施。
- 4月30日(土)
- ・11時00分：支援物資リストの送付。
- 5月1日(日)
- ・9時50分：支援物資リストの送付。
- 5月2日(月)
- ・9時50分：4/29に発生した大分県での震度5強の地震について大分県支部へ被害状況の確認。
  - ・10時10分：厚労省医政局総務課へAMA Tの派遣について連絡。
  - ・10時22分：支援物資リストの送付。
  - ・11時52分：厚労省保険局医療課より保険医療機関等の建物が全半壊した場合の併設代替施設での保険診療の取扱いについての連絡。
  - ・15時00分：併設代替施設での入院医療の実施可否の電話調査。
  - ・17時10分：熊本県内の会員病院へ保険医療機関等の建物が全半壊した場合の併設代替施設での保険診療の取扱いについて連絡。
  - ・20時00分：熊本市医師会駐車場にある飲料水の在庫について連絡。
  - ・20時34分：熊本県医療政策課より阿蘇温泉病院の診療支援についての連絡。
- 5月3日(火)
- ・10時12分：支援物資リストの送付。
  - ・12時20分：金澤先生とのミーティング内容報告についての連絡。
- 5月4日(水)
- ・10時06分：支援物資リストの送付。
  - ・17時10分：熊本市医師会駐車場にある飲料水の在庫についての連絡。
- 5月5日(木)
- ・10時07分：支援物資リストの送付。
  - ・14時37分：支援物資(飲料水)の状況についての連絡。
- 5月6日(金)
- ・10時49分：支援物資リストの送付。
  - ・17時30分：西澤本部長の熊本訪問の件の連絡。
- 5月7日(土)
- ・10時00分：支援物資リストの送付。
  - ・10時43分：青磁野リハビリテーション病院へ発災時からのクロノロ及

び支援物資に関する情報送付。

- ・12時07分：東日本大震災時に全日病より発出した要望書の送付。
- ・14時37分：熊本県被害状況調査集計結果送付。
- ・18時00分：支援物資リストの送付終了についての連絡。
- 5月8日（日） ・11時16分：熊本県医療法人協会臨時理事会についての報告。
- 5月9日（月） ・13時18分：熊本地震に係る支援物資の受付について正式に終了の連絡及びホームページ掲載。
- 5月10日（火） ・13時11分：平成28年熊本地震による災害についての特定非常災害及びこれに対し適用すべき措置の指定に関する政令等についての連絡。
- 5月11日（水） ・18時11分：熊本市医師会駐車場保管中の飲料水についての報告。
- 5月13日（金） ・16時03分：熊本県会員へ熊本地震における被害調査送付。
- 5月17日（火） ・西澤本部長、加納統括副本部長、山田熊本県支部長、金澤先生が熊本視察。
- 5月19日（木） ・13時41分：熊本視察における写真とレポート到着。
- 5月21日（土） ・15時19分：クロノロ終了連絡。
- 5月30日（月） ・西澤全日病会長、加納医法協会会長が四病院団体協議会でまとめた「平成28年熊本地震に係る要望書」を厚生労働大臣あてに提出（応対：神田裕二医政局長）

#### 【日本医療法人協会記録】

- 4月15日（金） ・4月14日21時に発生した地震に対して、同日正午に加納会長を本部長とする日本医療法人協会・災害対策本部を立ち上げると共に、全日本病院協会と連携を図るため、全日本病院協会と一緒に災害対策本部を設置。災害医療支援活動を協働で行う事とし、御船町・希望ヶ丘病院が倒壊の恐れがあるとの連絡を受け、AMATの派遣。
  - ・一方、医法協の災害対策本部としては、熊本県内の会員病院に対して、被害状況調査を開始した。益城町のましき病院と連絡が取れず。その他の会員は、医療提供体制に重大な影響を受けたのが1法人、軽微な影響を受けたのが4法人。建物に軽微な影響が17法人などあり。
- 4月16日（土） ・同日1時25分に発生した地震に対して、震度5以上を観測した福岡・佐賀・長崎・大分・宮崎県下の該当市町村に医療施設を有する会員病院40法人に対して、被害状況調査表を送付。同日13時現在、福岡県で医療機器に一部影響のある1法人、佐賀県で建物に軽微のある1法人、宮崎県で建物に軽微のある2法人と水道停止の法人1法人あり。同刻、加納／伊藤先生へ報告。
  - ・伊藤会長代行へ金澤 熊本県支部長の病院施設（青磁野リハビリテーション病院）の被災状況を報告。

- ・同日 1 時 25 分以降に発生した地震に対して、熊本県下の会員病院に対して、被害状況調査表（第 2 報）を送付。
- ・伊藤会長代行より鬼塚 福岡県支部長に要請し、田主丸中央病院を支援拠点として熊本県下の会員病院に飲料水（ペットボトル）と食料を提供することとした。それに伴い、全会員へ提供要請を行う。また、金澤熊本県支部長が宿泊施設の提供を開始し、病院施設を救援物資の保管場所、AMAT ミーティング場所とし始めた。
- ・杉常務理事が手配した飲料水と食糧を熊本県内の拠点病院（菊南病院・成仁病院）に発送。
- ・伊藤会長代行が熊本入りするため、一旦 18 時に福岡入りし、金澤 熊本県支部長などを通じ、被災地の情報収集、レンタカー・資材・食糧の調達を行い、夜間陸路移動をする。
- ・御船町・希望ヶ丘病院での、AMAT の派遣を終了。

4 月 17 日（日）

- ・0 時に伊藤会長代行が熊本入り。金澤 熊本県支部長の病院施設（青磁野リハビリテーション病院）到着し、被災状況を収集。
- ・10 時に AMAT メンバーを含めて医療支援と物資支援の分担、物資の配分などを打合せ。
- ・16 日 1 時 25 分以降に発生した地震に対して、熊本県下の会員病院に対して、被害状況調査（第 2 報）を引き続き調査。その結果、医療提供に影響がある法人が 2 法人と医療提供レベルを落としている法人が 6 法人。医療機器に影響がある法人が 5 法人。建物に一部影響のある法人が 9 法人。断水が 2 法人と影響のある法人が 2 法人。ガス停止が 2 法人あり。被災状況を加納会長、伊藤会長代行、金澤熊本県支部長へ報告。
- ・16 日 1 時 25 分に発生した地震に対して、震度 5 以上を観測した大分県下の会員 7 法人へ状況確認し影響が無かったことを確認。同状況を加納会長、伊藤会長代行、渋野大分県支部長へ報告。
- ・杉常務理事が手配した食糧を熊本県内の拠点病院（菊南病院・成仁病院）に発送。

4 月 18 日（月）

- ・16 日 1 時 25 分以降に発生した地震（本震）に対して、熊本県下の会員病院に対して、引き続き状況を確認。状況は、医療提供体制に支障がある法人が 4 法人と一部支障がある法人が 11 法人。医療機器に影響がある法人が 1 法人と一部影響がある法人が 10 法人。建物に影響がある法人が 1 法人（半壊）と一部影響がある法人が 20 法人。断水が 7 法人と影響のある法人が 5 法人。ガス停止が 9 法人と影響が 1 法人。
- ・日本医師会より今回の地震を受けて、16：00～17：30 被災者健康支援連絡協議会を急遽開催する旨の連絡があり。加納会長、伊藤会長代行に指示を仰ぎ、清事務局長出席にて対応。出席に伴い、上記の項目を含めた 18 日迄の活動報告を資料として提出。

- ・加納会長、杉常務理事が手配した飲料水と食糧、食器を青磁野リハビリテーションに発送。
- ・同日のメディアアクセスにて、全日病・医法協共同での AMAT による医療支援活動状況が報道。

- 4月19日（火）
- ・16日1時25分以降に発生した地震（本震）に対して、熊本県下の会員病院に対して、引き続き状況を確認。状況は、医療提供体制に支障がある法人が6法人と一部支障がある法人が12法人。医療機器に影響がある法人が1法人と一部影響がある法人が14法人。建物に影響がある法人が1法人（半壊）と一部影響がある法人が25法人。断水が6法人と影響のある法人が9法人。ガス停止が10法人と影響が2法人。同状況を加納会長、伊藤会長代行、金澤熊本県支部長へ報告。
  - ・4月18日開催した第22回被災者健康支援連絡協議会について、資料を会長・副会長及び金澤熊本県支部長へ報告。
  - ・支援拠点の田主丸中央病院に集められた飲料水・食糧を青磁野リハビリテーションに発送。
  - ・杉常務理事が手配した食糧・衛生品を青磁野リハビリテーションに発送。

- 4月20日（水）
- ・16日に全会員に要請していた「飲料水（ペットボトル）」「食料」の提供依頼について、一旦中止要請すると共に、改めて以下の物資提供のお願いを行う。

- ① 調理済み缶詰
- ② おかゆ
- ③ 果物（常温保存で日持ちがするもの）
- ④ 使い捨てのコップやお皿
- ⑤ 菓子類
- ⑥ 生理用品
- ⑦ ウエットティッシュ
- ⑧ ドライシャンプー
- ⑨ ボディー用ウエットタオル
- ⑩ 乾電池（単1・単3・単4）
- ⑪ トイレットペーパー

- ・医法協・全日病共同で各会員へ情報提供を開始し、各病院から必要な物資を取りに来て頂くとともに、支援が必要な施設に物資を搬送
- ・同日のメディアアクセスにて、全日病・医法協共同での AMAT による医療支援活動状況が報道。

- 4月21日（木）
- ・20日に全会員に要請した物資提供のお願い、被災者支援連絡協議会から提供情報、厚生労働省からの震災関係発信文章の情報を、メール・ホームページ等で情報提供。

- ・金澤熊本県支部長より携帯電話にて現状報告あり。物資等はインフラがまだ不十分な状況であるが、支援物資によりなんとか十分量を確保しつつあること。今後は避難所など周辺地域を含め医療支援を行っていくこととした。なお、加納会長にも金澤熊本県支部長より直接報告。
- 4月22日（金）
- ・金澤熊本県支部長の拠点より益城病院関連施設へ物資を搬送。
  - ・同日のメディアファックスにて、全日病・医法協共同でのAMATによる医療支援活動状況、熊本県入りし前日に取材を受けていた伊藤会長代行による飲料水と食糧の救援物資支給状況を報道。
  - ・21日から22日に発信された厚生労働省からの震災関係発信文章の情報を、メール・ホームページ等で情報提供。
  - ・杉常務理事が手配した食糧、衛生品を青磁野リハビリテーションに発送。
- 4月23日（土）
- ・加納会長が熊本県に入る。まず、青磁野リハビリテーション病院を訪れて、金澤熊本県支部長から熊本県内の会員病院の被災状況を伺い、今後の支援対策について意見交換を行った。その後、熊本市南区・東病院と宇城市・宇城総合病院を視察し、各院長と今後の支援策について意見交換を行った。
- 4月24日（日）
- ・熊本市南区・東病院でのAMATの派遣を終了。
- 4月25日（月）
- ・4月20日に提供依頼を各会員にお願いした支援物資について一定量確保が出来たため、終了し、各会員に連絡。
  - ・同日のメディアファックスにて、全日病・医法協共同でのAMATによる医療支援活動状況が報道。
  - ・厚生労働省からの震災関係発信文章の情報を、メール・ホームページ等で情報提供。
- 4月26日（火）
- ・厚生労働省からの震災関係発信文章の情報を、メール・ホームページ等で情報提供。
  - ・支援拠点の田主丸中央病院に集められた飲料水・食糧などを青磁野リハビリテーションに発送。
  - ・同日のメディアファックスにて、全日病・医法協共同でのAMATによる医療支援活動状況が報道。
  - ・17時より被災者健康支援連絡協議会に出席（事務局対応）
- 4月27日（水）
- ・4月26日開催した第22回被災者健康支援連絡協議会について、資料を会長・副会長及び金澤熊本県支部長、鬼塚福岡県支部長に報告。
  - ・被災者健康支援連絡協議会にて配られた資料に基づき、未着及び連絡不通となっている熊本県下の会員病院について状況把握。状況は、医療提供体制に支障がある法人が9法人と一部支障がある法人が12法人。医療機器に影響がある法人が3法人と一部影響がある法人が17法人。



人。建物に影響がある法人が 3 法人（全壊）と一部影響がある法人が 28 法人。水道に影響のある法人が 19 法人。ガスに影響がある法人が 14 法人。同状況を加納会長、伊藤会長代行、金澤熊本県支部長、鬼塚福岡県支部長に報告。

- ・金澤熊本県支部長の拠点より熊本市西区役所へ物資を搬送。
- ・厚生労働省からの震災関係発信文章の情報を、メール・ホームページ等で情報提供。
- ・同日のメディアファックスにて、全日病・医法協共同での AMAT による医療支援活動状況が報道。
- ・被災者健康支援連絡協議会メーリングリスト情報を加納会長、伊藤会長代行へ報告。

4 月 28 日（木）

- ・金澤熊本県支部長の拠点より益城整形外科クリニックへ物資を搬送。
  - ・厚生労働省からの震災関係発信文章の情報を、メール・ホームページ等で情報提供。
  - ・AMAT 活動について、同日のメディアファックスにて報道されるとともに、宇城市・宇城総合病院での活動を終了。
- 被災者健康支援連絡協議会メーリングリスト情報を加納会長、伊藤会長代行へ報告。

4 月 30 日（土）

- ・支援拠点の田主丸中央病院に集められた飲料水・食糧などを青磁野リハビリテーションに発送。

5 月 2 日（月）

- ・「ファインテラスせいじの」にある物資の内訳を医法協及び全日病の会員病院に対し、医法協・全日病連名で全日病より告知。
- ・「田主丸中央病院」より、物資情報の提供依頼を受け、同病院にある物資の内訳を熊本県下各会員に対し、医法協より告知。
- ・報道機関の情報（5 月 1 日の西日本新聞報道にて阿蘇立野病院の閉院が決まった情報）などを加え、同状況を加納会長、伊藤会長代行、金澤熊本県支部長、鬼塚福岡県支部長に報告。
- ・厚生労働省からの震災関係発信文章の情報を、メール・ホームページ等で情報提供。

- ・被災者健康支援連絡協議会メーリングリスト情報を加納会長、伊藤会長代行へ報告。

5 月 6 日（金）

- ・厚生労働省からの震災関係発信文章の情報を、メール・ホームページ等で情報提供。
- ・被災者健康支援連絡協議会メーリングリスト情報を加納会長、伊藤会長代行へ報告。

5 月 7 日（土）

- ・医法協・全日病共同で行っていた熊本県下各会員への物資の情報提供を終了。

5 月 9 日（月）

- ・加納会長、伊藤会長代行、金澤熊本県支部長、鬼塚福岡県支部長、杉

常務理事へ被災会員への支援経費調査を実施。

・被災者健康支援連絡協議会メーリングリスト情報を加納会長、伊藤会長代行へ報告。

5月10日（火）

・厚生労働省からの震災関係発信文章の情報を、メール・ホームページ等で情報提供を行った。

・被災者健康支援連絡協議会メーリングリスト情報を加納会長、伊藤会長代行へ報告。

5月17日（火）

・13時30分：医法協・加納会長、熊本空港到着。その後、益城町の益城病院へ移動。

・13時45分～14時40分：社会医療法人ましき会・益城病院に到着。理事長・犬飼邦明先生に應對して頂くとともに館内案内をして頂いた。

・（震災直後からの状況について）

・震災直後、1階に全ての患者を一時退避。その後すぐに、自衛隊が入り入院患者の移送を行った。

・東日本大震災の教訓を踏まえ、病院内階段部に職員用避難袋を1人1つフックに釣りかけており、避難の際はこの避難袋を使用。非常に役立ったとのこと。

・（現状について）

・館内の上水道は仮設設備等によって供給可能となっているが、下水道については1階を除き使用不可となっている。外来については、外来部を設け、受入をおこなっている状況。

・入院については、仮設を設け、7人程度患者を受入れている。今後は40人程度まで回復させる予定。

・施設については、敷地内は患者・関係者以外は基本的に立入禁止。敷地内に起伏が多数あり、喫茶室が破損している状況。

・建物については、基礎を30m入れており、施設間の段差や壁の亀裂・破損等は激しいが当面の使用には問題が無いとのこと。しかし、断層上にあること、基礎にズレが発生し、施設間に段差・隙間・壁板の崩落がある。そのため建築会社より今後の継続使用には改築等しなければ不可能とのこと。

・施設の土地・建物は自己所有して無借金状態だが、今後の再建等には課題が多いとのこと。医法協や全日病、日精協など医療団体を通じて再建支援に関する要望を行ってほしいとのこと。

・14時40分～16時40分：益城病院訪問後、青磁野リハビリテーション病院への視察、及び熊本駅への全日病・西澤会長との合流を予定していたが、市内への移動に時間がかかるということでスケジュール変更し、大規模避難所のグランメッセ熊本の視察、益城町内の視察（車内からの視察）を行った。全日病・西澤会長は15時に熊本駅より阿蘇立野病院へ

直接向かい、医法協・金澤常務理事は熊本空港にて医法協・加納会長と16時に合流の後、阿蘇立野病院へと向かった。

・16時40分～17時30分：医療法人順幸会・阿蘇立野病院へ医法協・加納会長、医法協・金澤常務理事、全日病・西澤会長到着。事前に到着していた全日病・山田常任理事、熊本県医療法人協会・川野理事と合流。理事長・上村晋一先生、前理事長・上村順一先生に対応して頂くとともに館内案内をして頂いた。

現状は以下の通り

・阿蘇大橋の崩落や大規模崖崩れ等により、国道57号線及び村内中心部への動線途絶、ライフラインの断絶、裏山の崩落の危険性がある状態。

・特に裏山の崩落の危険性があり、入院患者71人全員を県内9カ所の医療機関に移し、本院は閉院。今後は同系列の特養内に新たに診療所を設ける予定。

・施設については、敷地内の亀裂や段差、渡り廊下における段差が20cm程度あり、館内施設は一部機器を搬出しているが入院患者移設後のままとなっている。

・今後の再建等には難題が多いが、医法協・全日病ともに再建支援を行っていきたいとした。

・17時30分：視察終了。熊本市内へ移動。

## 第2. AMAT派遣実績・活動報告

### 1. 災害時医療救護班派遣実績【登録順】 7病院43名

- ① 社会医療法人祐愛会 織田病院 3名1チーム出動  
人員内訳：医師1名、看護師1名、事務1名  
派遣期間：平成28年4月15日～16日  
活動場所：希望ヶ丘病院等
- ② 医療法人弘恵会 ヨコクラ病院 3名1チーム出動  
人員内訳：医師1名、看護師1名、事務1名  
派遣期間：平成28年4月15日  
活動場所：希望ヶ丘病院等
- ③ 医療法人伯鳳会 白鬚橋病院 4名1チーム出動  
人員内訳：医師1名、看護師1名、事務2名  
派遣期間：平成28年4月16日～20日  
活動場所：青磁野リハビリテーション病院等
- ④ 医療法人伯鳳会 赤穂中央病院 5名1チーム  
人員内訳：医師1名、看護師2名、事務2名  
派遣期間：平成28年4月16日～18日  
活動場所：東病院等
- ⑤ 医療法人社団永生会 南多摩病院 4名1チーム  
人員内訳：医師1名、看護師2名、事務2名  
派遣期間：平成28年4月16日～21日  
活動場所：宇城総合病院等
- ⑥ 医療法人社団永生会 永生病院 4名1チーム  
人員内訳：医師1名、看護師1名、事務2名  
派遣期間：平成28年4月17日～20日  
活動場所：東病院等
- ⑦ 医療法人伯鳳会 赤穂中央病院 5名1チーム  
人員内訳：医師1名、看護師2名、事務2名  
派遣期間：平成28年4月19日～22日

活動場所：東病院等

- ⑧ 医療法人社団永生会 永生病院 4名1チーム  
人員内訳：医師1名、看護師2名、事務1名  
派遣期間：平成28年4月20日～24日  
活動場所：東病院等

- ⑨ 医療法人社団永生会 南多摩病院 4名1チーム  
人員内訳：医師1名、看護師2名、事務1名  
派遣期間：平成28年4月21日～24日  
活動場所：宇城総合病院等

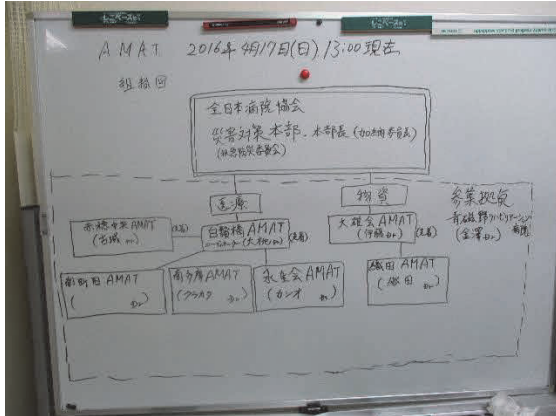
- ⑩ 医療法人健康会 霧島記念病院 3名1チーム  
人員内訳：医師1名、看護師1名、事務1名  
派遣期間：平成28年4月23日～24日  
活動場所：東病院等

- ⑪ 医療法人社団永生会 南多摩病院 4名1チーム  
人員内訳：医師1名、看護師2名、事務1名  
派遣期間：平成28年4月25日～28日  
活動場所：宇城総合病院等



## 2. 派遣チームからの活動報告書(略)

### 【参考】活動模様



### 第3. 被災地視察報告

#### 1. 役員による視察報告

(1) 西澤本部長（全日本病院協会会長）、加納統括副本部長（日本医療法人協会会長）

5月17日、西澤本部長、加納統括副本部長による視察結果は下記のとおり。

13時30分

- ・ 加納統括副本部長（医法協会会長）が熊本空港に到着し、その後、社会医療法人ましき会・益城病院へ移動した。

13時45分～14時40分

- ・ 益城病院に到着後、同院理事長・犬飼邦明先生が対応し、館内案内をして頂いた。



- ・ 震災直後、1階に全ての患者を一時退避させ、その後、自衛隊が入院患者の移送を行った。
- ・ 東日本大震災の教訓を踏まえ、病院内階段部に職員用避難袋を1人1つそれぞれフックに釣りかけており、避難の際はこの避難袋が非常に役立ったとのことである。



以下、現在（5月17日当時）の状況

- ・ 館内の上水道は仮設設備等によって供給可能となっているが、下水道については1階を除き使用不可となっている。
- ・ 外来については、外来部を設け受入れを行っており、入院については、仮設を設け、7人程度患者を受入れている。今後は40人程度まで回復させる予定である。
- ・ 敷地内は患者・関係者以外は基本的に立入禁止とし、敷地内に起伏が多数あり、喫茶室が破損している状況であった。なお、基礎を30m入れており、施設間の段差や壁の亀裂・破損等は激しいが、当面の使用には問題が無いとのことであった。





- ・ 施設間に段差・隙間・壁板の崩落があり、そのため建築会社からは、今後、継続使用をするには、改築等をしなければならないとのことであった。
- ・ 施設の土地・建物は自己所有して無借金状態だが、今後の再建等には難題が多い。全日病、医法協、日社協など医療団体を通じて再建支援に関する要望を行ってほしいとのことであった。



#### 14時40分～16時40分

- ・ 益城病院訪問後、大規模避難所のグランメッセ熊本の視察、益城町内の視察（車内からの視察）を行った。



- ・ 西澤本部長（全日病会長）は、熊本駅から阿蘇立野病院へ向かった。

#### 16時40分～17時30分

- ・ 西澤本部長、加納統括副本部長、医法協・金澤常務理事、全日病・山田常任理事、熊本県医療法人協会・川野理事が、医療法人順幸会・阿蘇立野病院に集合し、同院理事長・上村晋一先生、前理事長・上村順一先生に対応して頂いた。



以下、現在（5月17日）の状況

- 阿蘇大橋の崩落や大規模崖崩れ等により、国道57号線及び村内中心部への動線途絶、ライフラインの断絶、裏山が崩落の危険があり、入院患者71人全員を県内9カ所の医療機関に移し、本院は閉院した。 今後は同法人内の特養施設の中に新たに診療所を設ける予定である。
- 病院施設は、敷地内の亀裂や段差、渡り廊下における段差が20cm程度あり、施設からは、一部検査機器を搬出しているが、入院患者移送後のままとっている。





- ・ 今後の再建等には難題が多いが、全日病・医法協ともに再建支援を行っていききたいとした。



以上

(2) 加納統括副本部長（日本医療法人協会会長）

4月23日に加納統括副本部長が熊本地震における被災地の支援物資の状況及びAMAT活動状況の視察を行った。

視察場所は、下記のとおり。

- 1) 青磁野リハビリテーション病院（ファインテラスせいじの）  
同院院長の金澤先生、永田事務部長等にご対応いただいた。



- 2) 東病院  
同院院長の東先生にご対応いただいた。



- 3) 宇城総合病院  
同院院長の江上先生にご対応いただいた。



(3) 猪口副本部長（全日本病院協会常任理事）

4月26日に猪口正孝副本部長が熊本を訪問し、以下の行程にて現地視察を行った。

(行程)

| 時間    | イベント事項      | 場所       | 面会者等             | 内容                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-------|-------------|----------|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9:55  | 阿蘇熊本空港着     | 熊本空港     |                  | 多摩総合医療センターDMAT カーに5人乗車。                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 10:25 | 西原市視察       | 西原市街     |                  | 木造家屋倒壊                                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 10:32 | 避難所視察       | 西原中学校    |                  | 役場近傍の西原保育園に日赤東京支部による救護所あり。Deruの存在。24日140人、昨日50人、本日で下回る状況とのこと。医療需要減少傾向。小学校体育館避難所床に布団を敷いて生活。昼間のため主に高齢者と小児がいた。段ボールなどのパーティションなし。救護所は巡回型。婦人警察官？による警視庁の避難生活者支援（聞き込み、語らい）が行われていた。地域はコミュニケーションが良く、あまりパーティションなど気にする様子が見えず。老人は談笑している姿が見えた。自衛隊の炊き出し班、入浴サービスなどあり。工程が駐車場で、軽自動車が目につく。 |
| 11:50 | 阿蘇外輪山の内側へ侵入 | 国道       |                  | 外輪山山肌の崩落目視                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 12:00 | 阿蘇医療センター視察  | 阿蘇医療センター | 甲斐院長、平成立石病院院長谷川隊 | 阿蘇医療センターは免震構造のため地震被害ほぼなく、地震後中心的に医療を担ってきた。救急患者は16日最高で約180人。空床が40床ほどあったためほとんどの超急性期患者を入院処置することができた。その後も救急患者が来院し、一日10人程度の入院があったが、入院患者を退院させることで対応した。現在も患者は通常よ                                                                                                                |

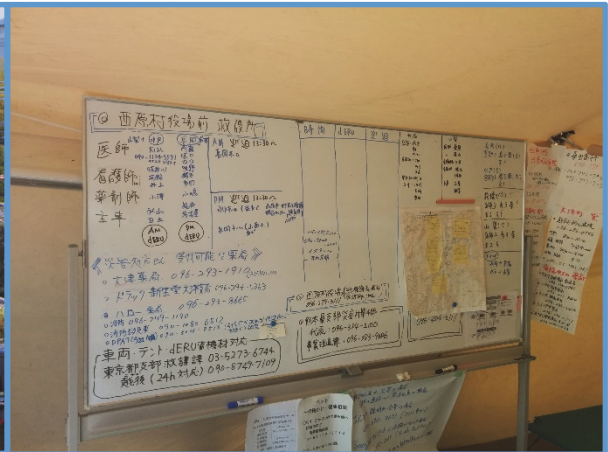
|       |                                            |            |                                              |                                                                                                                                                           |
|-------|--------------------------------------------|------------|----------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|       |                                            |            |                                              | <p>り多いが、DMAT、自治体医療救護班の病院支援で乗り切っている。医療スタッフは震災以前の人数を確保しているが、需要が多く疲弊しているため、支援をしている状況。落ち着く5月中寿運までの支援を希望。現在東京都医療救護班の平成立石病院が支援中。今後も東京都医療救護班1ラインが5月連休まで継続予定。</p> |
| 13:20 | 阿蘇医療センター内 ADRO（アドロ）責任者（統括 DMAT）徳島大学三村先生と相談 | 阿蘇医療センター   | 徳島県立中央病院 三村部長、岩手医科大学 藤原博之、熊本県北広域本部 下村課長      | <p>ADRO 本部には DMAT から引き継いだ、知事会からの自治体医療救護班が 22 から 23 隊が勤務。阿蘇地域の阿蘇市、西原村、南阿蘇村の救護所と阿蘇医療センター、阿蘇温泉病院、大阿蘇病院を病院支援。救護所に関しては Assessment 程度で、医療支援の必要度はまだ評価していない。</p>  |
| 14:55 | 熊本県庁                                       | 災害医療対策本部   | 災害医療コーディネーター人吉医療センター 下川恭弘、熊本県健康福祉部医療政策課 守衛信頭 | <p>現在全県で活動している 36 隊を今後も維持したい旨確認<br/>※政令指定都市熊本市の状況はつかめていないかも。</p>                                                                                          |
| 15:50 | 熊本県医師会                                     | 熊本県医師会仮事務所 | 渡辺和弘 総務課長                                    | <p>JMAT の 2 隊追加に関しては、現状を維持したいとの趣旨から※2 隊を連休明けまで派遣決定</p>                                                                                                    |
| 16:53 | 熊本市民病院                                     | 熊本市民病院     | 本部事務担当者                                      | <p>南館の耐震性が確保されていないことが以前から知られていた。天井崩落、水道管の損傷、壁の崩落などで、入院患者の退避を決定。玄関の外で処方箋の対応を行っている。新館では事務員が働いており、建物調査が済めば再開見込み。</p>                                         |

|       |              |            |                                   |                                                                                                                       |
|-------|--------------|------------|-----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 17:58 | 青磁野リハビリテーション | ファインテラス青磁野 | 青磁野リハビリテーション病院<br>金澤理事長<br>永田事務部長 | 医師会、病院協会の両方に係わる金沢先生に現地集積所になってもらい、病院協会としてはよかった。当初は病院に取りに来てもらったが、それでは配給物資の配れないところにこちらから運ぶのが大事。支援物資だけではなく、配給に携わる人員の支援が必要 |
| 18:45 | 九州新幹線で福岡へ    | 熊本駅～博多駅    |                                   | 新大牟田駅まで徐行運転、立ち席                                                                                                       |

(まとめ)

- ① 熊本は人口減少で病床過剰地域であったことから、10 病院以上の病院閉鎖入院患者の避難があったにもかかわらず、他地区へ広域搬送せず、熊本県内で入院患者にほぼ対処した印象がある。
- ② 病院閉鎖入院患者非難の判断は貴重な経験であり、その判断について共有し、今後他地域における判断に生かすべきである。
- ③ 受け入れ病院は、時病院の空床ベッドや、リハビリ施設などを活用して患者を受け入れた。こうした病院の支援が重要である。
- ④ 病院支援には当初 DMAT が入りかなり大きな力となった。
- ⑤ 全日病 AMAT や日医 JMAT から病院支援を申し入れても、DMAT の存在により支援無用の返事ばかりであったが、DMAT 引き上げの情報を機に支援の申し入れが寄せられるようになった。
- ⑥ DMAT は引き上げを当初から明らかにし、病院支援の場合は全日病などに継続するシステムを作り上げておくべき
- ⑦ 病院支援を受ける病院は通常診療であるため、災害時支援の様相は早期に消失していたが、過活動状況で疲弊したため、外部の認識より長期の支援を望む傾向にある。
- ⑧ 被支援病院は通常保険診療であるため緊急災害援助法の適応とならない。支援する DMAT をはじめとした救護班は緊急災害援助法の適応となるのか？
- ⑨ 病院支援引き上げのタイミングが難しい
- ⑩ ADRO は DMAT を中心に作られたため DMAT チーム 1 つ 1 つの存在が強く統括人物が良く見えない。また地元医師会、行政が見えるようにいるべきではないか。
- ⑪ 自治体派遣医療救護班には自治体からの連絡員が随行していることが多い。彼らは支援の長期化を望まない傾向にある。
- ⑫ 派遣期間の決定は被災県側が決めるというルールが必要か。
- ⑬ 支援は救護班単位だけではなく、ニーズに合わせて調整員数名、看護師数名などの派遣体制が必要。

(写真)







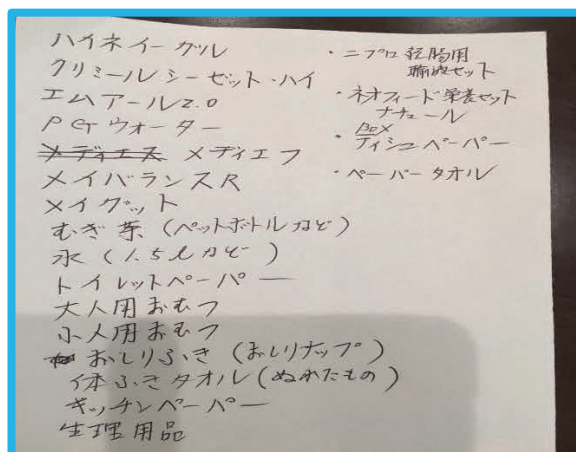
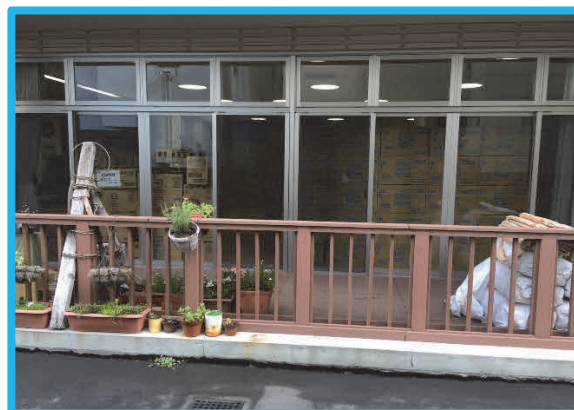
## 第4. 支援物資に係る報告

### 1. 支援物資に関する活動概要

4月16日未明の熊本地震の本震発生後、被災地の病院から物資の緊急援助が必要との連絡を受け、同日に全日本病院協会本部、伊藤伸一日本医療法人協会会長代行、鹿児島県の3病院（市比野記念病院、国分中央病院、サザンリージョン病院）が、熊本県の青磁野リハビリテーション病院へ緊急支援物資を搬送した。

併せて、同日に全会員病院に対して支援物資の提供を一斉メールにて依頼、そして、熊本県の状況を確認した結果、隣県の福岡県を一時集積地点とすることが望ましいとされ、同県のヨコクラ病院及び田主丸中央病院を支援物資の一時集積地点とすることを決定した。

更に、一時集積地点から被災地へ搬送するための熊本市内の拠点として、青磁野リハビリテーション病院関連施設の「ファインテラスせいじの」を現地の支援物資搬送拠点とすることを決定した。



全国の会員病院等から、かなりの支援物資が届いたこともあり、4月19日に支援物資一時集積地点をヨコクラ病院から福岡県医師会に変更した。福岡県医師会から、トラックにて、「ファインテラスせいじの」へ物資を搬送していただくこととなった。

また、現地での支援物資を調整する人員として、4月19日から5月8日まで、当協会職員1名を青磁野リハビリテーション病院へ派遣し、支援物資の搬送・管理等を行った。その際、東京の災害対策本部から毎日、熊本県内の全日病・医法協会員病院等に対し、FAXにて支援物資の情報提供を行い（5月7日まで）、熊本県内の各病院から、リストを確認のうえ、必要な支援物資を取りにきていただいた。併せて、必要な施設への支援物資を搬送作業も実施した。



4月22日に被災地との支援物資需給調整のため、支援物資受付の一旦中止を会員病院へ連絡。5月9日に支援物資の受付を正式に終了した。

## 2. 支援物資をご提供いただいた医療機関等

102の施設より支援物資のご提供を賜りました。関係各位のご厚情に改めて感謝申し上げます。

## 3. 支援物資を配布した医療機関等

熊本県内の以下の医療機関等に支援物資の配布を行った。

### 【支援物資配布先（順不同）】

あおば病院、あおばの家、あきた病院、イエスズの聖心病院、おとなの学校八間堂校  
グッドヘルス、くまもと成仁病院、くまもと清明病院、くまもと乳腺・胃腸外科病院  
けあまっぷ城西、サキサカ病院、さくら病院、ささえりあ井芹、ささえりあ花陵、  
ささえりあ金峰、ささえりあ熊本西、ささえりあ三和、ささえりあ水前寺、  
ささえりあ飯田、ささえりあ平成、ささえりあ本庄、サンセルテ月光  
せいじのヘルパーステーション、ニキハーティホスピタル、にしくまもと病院、  
のぞみ、はなの丘、ヒルズ竜山、ファインテラスせいじの、フォレスト熊本

まえだクリニック、まんごく保育園、みつぐ苑、メンタルクリニック保田窪、  
やましろ病院、よもぎクリニック、リバーサイド御薬園、阿蘇温泉病院、葵の森、  
伊井産婦人科病院、伊東歯科、移送サービスさくら、井上病院、井病院、益城病院、  
音山内科病院、菊池中央病院、菊南病院、弓削病院、九州記念病院、  
熊本かがやきの森支援学校、熊本機能病院、熊本光洋台病院、  
熊本市居宅支援事業所協議会、熊本第一病院、熊本託麻台リハビリ病院、  
熊本地域医療センター、熊本南病院、熊本脳神経外科病院、熊本博愛病院、  
熊本泌尿器科病院、慶徳加来病院、御幸病院、御船包括支援センター、江南病院、  
高野病院、桜ヶ丘病院、山口病院、山鹿国生病院、山鹿中央病院、山城病院、  
慈恵病院、出田眼科病院、小柳病院、小林病院、松田病院、城山の舎、  
城西町内ふれあいセンター集会場、城南病院、森病院、陣内病院、杉村病院、  
瀬戸病院、成尾整形外科病院、聖ヶ塔病院、青磁野リハビリテーション病院、  
青翔苑、川口病院、川野病院、帯山中央病院、大阿蘇病院、託麻台リハ病院、  
池田病院、鶴田病院、田迎ケアセンター、嶋田病院、東病院、南熊本病院、  
南部中央病院、日隈病院、博愛病院、比企病院、武蔵丘病院、保田窪整形外科病院、  
訪問看護城西、北部脳神経外科かなこぎ苑、北部病院、本庄内科病院、民自協、  
明生病院、養護老人ホーム花へんろ、竜山通所リハ、  
竜山内科リハビリテーション病院、老健・リバーサイド御薬園

計 114 施設

【参考：支援物資（主なもの）】

飲料水、簡易トイレ、ジュース、カップ麺、箱ティッシュ、パン、お菓子、  
カセットコンロ、フォーク、スプーン、割りばし、アルミホイル、大人用おむつ、  
パット、スプーン、割りばし、ジュース、レトルト食品、ゼリー飲料、  
トイレットペーパー、タオル、紙おむつ、ウエットティッシュ、手袋、生理用品  
手指消毒剤、プラスチックグローブ、おしりふき、うがい薬、紙コップ、ハンドソープ、  
トイレそうじシート、トイレ用ポリ袋、消毒液、消毒用エタノール綿、サージマスク、  
ディスポグローブ、ドライシャンプー、電池、ブルーシート、ランタン、  
経腸栄養剤、他多数

## 【支援を行った医療機関からの御礼状】

平成28年4月22日

公益社団法人  
全日本病院協会 御中

葛飾郡市医師会立病院  
病院長 矢野 智孝

平成28年熊本地震への支援物資のご提供について(御礼)

謹啓 春暖の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

平素より、本院運営に格段のご配慮を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、この度は、熊本地震の被災地に対しまして、支援物資をご提供下さいまして誠にありがとうございました。

今回の熊本地震により、本県では、死者・安否不明者数48名、家屋の被害などから避難生活に余儀なくされた住民の方は9万人以上にものぼるという甚大な被害に見舞われました。そのため、水・食糧・生活用品の不足が多数の地域で発生しておりますが、貴会により提供された支援物資により、随分助みとなりました。

当院も現在、上水の濁りが改善せず、診療に必要な水を葛飾市へ依頼し、自衛隊から給水の稼働を頂いている状況ですが、職員全員が一丸となって、一日も早く通常診療に戻すべく、努力しておりますので、ご心配されませんようお願いいたします。

今回の被害に対しまして、貴会のご厚情に改めて感謝申し上げ、本来ならば拝眉のうえ御礼申し上げるべきところではございますが、書中をもちまして、取り急ぎご報告かたがた御礼の挨拶とさせていただきます。

謹白

前略。このたびは突然の被災に対し、多くのご支援とご厚情を頂き、心より感謝申し上げます。全日病からの支援は最も早く、最も適切に、必要な時に必要なものを、頂くことができ、また多くの先生方の顔の見えるご支援を頂くことができ、本当に助かりました。地域医療の一端を担う病院として外来診療、入院管理、救急医療、JMAAT出動協力等の被災地医療を被災日より一日も休むことなく、職員一同頑張っております。ライフラインがすべて止まっていたころの丁度急性期の支援が滞った時期に大量のご支援を頂くことができ、どれほど身も心も救われたことか、本当にありがとうございます。今後ともどうか宜しくご指導ください。皆さま天候不順のおりご自愛ください。 敬具

平成28年4月26日

医療法人弘生会本庄内科病院院長 本庄弘次



前略 この度の熊本地震に際しましては、早速丁寧なるお見舞い  
(救援物資・支援物資)、励ましのお言葉ならびにご尽力をいた  
と共に、過分なるご配慮をいただき厚くお礼申し上げます。

幸いにも被災地でありながら、皆様方の多大なご支援をいただき懸  
念な復旧作業に努めてまいりました結果、四月二十日には、外来  
通常業務を、まだ一部業務に支障が残っておりますが、入院受け入  
れを出来る事となりました。

皆様には、大変なご心配とご迷惑をおかけいたしました。が、職員一同  
より一層精一杯がんばる所存でございますので、何卒ご支援の程お  
願い申し上げます。本来ならば拝眉のうえお礼申し上げるべきと  
ろでございますが、書中をもちましてご報告がたがたお礼のご挨拶と  
させていただきます。

平成二十八年五月二日

川野病院

理事長 川野 四郎  
院長 川野 尚

草々

平成 28 年 5 月 12 日

全日本病院協会 御中

医療法人社団 鶴友会  
理事長 鶴田 克家  
鶴田病院  
院長 鶴田 豊

この度の地震に伴うご支援について (御礼)

この度の地震により被害を受けられました皆様に、心よりお見舞い申し上げます。

さて、日頃から、医療法人社団 鶴友会 鶴田病院及びメディエイト鶴翔苑の業務遂行につきましては、特別のご配慮を賜り厚く御礼申し上げます。

またこの度は、地震発生という厳しい状況の中にもかかわらず、当院に対し、多くの物資をご支援いただき、誠にありがとうございました。

当院としては、地震直後は、建物自体には大きな損傷はなかったものの、停電、断水等厳しい状況に至りましたが、皆様の暖かいご支援により、現在では、通常の診療が可能となっております。

お蔭をもちまして、入院患者を始め利用者の皆様には大きなご不便をおかけする事態を招くことなく対応することができ、患者・入所者の皆様からも感謝の言葉をいただいているところです。

これもひとえに、皆様方のご支援の賜物と深く感謝申し上げる次第でございます。

鶴友会といたしましては、今後とも信頼される地域に根ざした医療機関・施設として、地域の医療、福祉サービスを支えてまいる所存でございますので、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますよう心からお願申し上げます。

本来であれば、お伺いして御礼を申し上げるべきところではございますが、先ずは書面をもって厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

## 支援物資に対するお礼

このたびの熊本地震は「大震災級」、私たちに未曾有の畏怖と悲劇をもたらしました。上益城郡・熊本市・阿蘇地域など広範囲に及ぶもので、道路の欠損や家屋の倒壊などあり、普通の暮らしが一変してしまいました。

益城病院は敷地・道路の地割や欠損、又、病棟や管理棟の建物にも大きな被害を受けて、立ち入り禁止の危険箇所となり、前震後の翌日には入院患者さん全て退院させることができ、並行して職員の無事も確認できました。

生活に必要な水が止まった状態が続いていますが、地震後 1 ヶ月たった今も余震が続き、1400回を越えています。筆舌に尽くし難い災禍と苛酷な未来を残しましたが、同時にそれまで住んでいた地が、いかにかけがえの無い大切な場所であったかを、私たちに再認識させてくれました。地震は多くの命を奪いましたし、我が家に帰れないで、避難所で生活する住民も2万人います。

転院していた患者さんからの入院依頼の相談などが多くあっています。診療体制を整え1日も早い復旧に向けて何とか職員一同で頑張っています。貴法人から早々に賜りましたご支援に深く感謝いたし、謹んでお礼申し上げます。

お礼が遅れましたことお詫びします。

平成 28 年 5 月 15 日

熊本県上益城郡益城町惣領1530  
社会医療法人 ましき会  
益城病院 理事長 大飼邦明

公益社団法人  
全日本病院協会  
会長 西澤 寛俊 様

謹啓

新緑の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、この度当地を襲った熊本地震に際しまして、いち早くご厚情溢れるお言葉並びにお心遣いの援助品をいただき、厚くお礼申し上げます。

報道でご承知のとおり今回の地震では、阿蘇も甚大な被害を受けましたが、幸いにも当坂梨会の職員は皆無事で、建物も数十箇所修理箇所等がありますが大きな被害から免れる事ができ、通常診療を行なうことができいております。しかし、自宅が全壊するなど大きな被害を受けた職員もおり、現在は心のケアや生活再建を行なえるための支援を行なっています。

今回、皆様から頂きました励ましのお言葉を糧に、職員全員が一人となって阿蘇地域の医療・介護に貢献できる坂梨会として努力して参りますので、今後も尚一層のお引き立てをよろしく願いたします。

余震等も続き落ち着きませんで、ご報告並びにお見舞いのお礼が遅くなりましたこと、どうかご容赦いただきたく存じます。

甚だ賂儀ではありますが取り急ぎご報告かたがたお見舞いのお礼を申し上げます。

末筆ではありますが、皆様におかれましてはご自愛くださいませ。

謹白

平成 28 年 5 月 末日  
医療法人社団坂梨会  
阿蘇温泉病院  
理事長 坂梨 嘉壽恵  
総院長 下村 貴文

前略 この度の熊本地震に際しましては、早速の励ましの  
お言葉や過分なるお心遣いを賜り、心より御礼申し上げます。  
入院患者様、入居者様に怪我がなかったことに何よりも安堵し  
ております。どうか水や食物を提供することができたのは  
ひとえに皆様のご協力のお陰と感謝致しております。  
今後、復興に向け全職員一丸となって力を尽くして参ります。  
まずは取り急ぎ報告かたがた御礼申し上げます。  
ありがとうございました。

草々

平成28年5月16日

日隈病院  
理事長 山本 藍

拝啓

立夏の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別  
のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度の震災の際には、物資等ご支援を頂きまして、誠にありがとうございました。  
ございました。お礼が、遅くなりましたことをご許し下さい。

今回の震災では、当院の建物の一部損壊等がございましたが、復旧に  
向け、職員一丸となって、努力致しております。

皆様の益々のご健康とご活躍をお祈り申し上げますとともに、引き続き  
き、ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。

敬具

二〇一六年五月二十三日

医療法人野尻会 理事長 野尻明弘  
熊本泌尿器科病院 院長 鍋倉康文

全日本病院協会 御中

謹啓 この度の熊本地震に際しましては、ご厚情あふれるお心遣い  
を賜り、厚くお礼申し上げます。

皆様方より多大なご支援をいただき職員一丸で復旧作業に努めてま  
いりました結果、段階的に診療を再開し、5月6日からは入院・外来  
ともに通常業務に戻ることができました。

これからも地域の皆様に良質な医療を提供し、地域医療に貢献して  
まいります。

この度は色々ご心配をいただき誠に有難うございました。

謹白

平成28年6月3日

一般社団法人 熊本市医師会  
熊本地域医療センター  
院長 廣田 昌彦

前略 この度の熊本地震に際しまして、早々にご鄭重なるご支援と励ましの  
お言葉を賜り、厚く御礼申し上げます。

今回の地震発生後は、ライフラインの停止、一部の設備が機能しない状況に  
見舞われましたが、幸いにも患者様への大きな被害は免れることが出来ました。  
震災下での皆さまの御心遣いが大きな支えでした。

お陰様で病院機能も少しずつ元に戻ってきております。先月下旬からは外来  
診療や入院受入れの通常診療を再開いたしました。施設設備につきましても、  
各方面の尽力により完全復旧へ向けて進んでおります。

今後も職員一同、地域医療・福祉へと貢献すべく頑張っていく所存です。  
変わらぬご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

非常時の対応に追われ御礼状が遅れましたこと心よりお詫び申し上げます。

草々

平成二十八年五月二十六日

医療法人清和会 理事長 東野裕司  
水前寺とうや病院 院長 今村重洋



平成 28 年 7 月 31 日

一般社団法人日本医療法人協会  
会長：加納 繁明 殿

医療法人愛生会 くまもと温石病院  
理事長 村井 秋  
院長 藤本 久夫

拝啓、時下ますますご清祥のことと存じます。  
さて、このたびの熊本大地震被災に際しまして、早速御丁寧なお見舞いをいただき、厚くお礼申し上げます。そのうえ多大なるご援助までいただき、職員一同感謝のあまり言葉もございません。

4月14日の前震、そして16日の本震により、病棟の天井の崩落、給水管の破損、そして併設のサービス付き高齢者住宅「木香館」を中心とした建物の天井や壁の崩落、スプリンクラーの破損等大きな被害を受けました。  
幸いにも患者様、利用者様、そして職員誰一人けがすることなく難を逃れることができました。  
木香館の入居者様には近隣の施設等に一時的に入所いただきまして大変ご不便を強いております。  
また、デイケアや在宅総合ケアセンター事務所等、手狭ではありますが仮設で奮闘中です。  
そして震災後丸3か月が経った今、全職員一丸となって9月1日の再開を目指し、復旧工事・準備を急ピッチで行っているところでございます。

本来なら参上し、ご挨拶を申し上げなければならぬところですが、失礼ながら書中をもってお礼申し上げます。  
まずは、略儀ながらお礼かたがたご報告まで。

敬具

ありがとうだモン！  
がんばるモン！！



謹啓

初秋の候、貴社の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
さて、この度当地を襲った熊本大地震に際しまして、ご厚情溢れるお言葉並びにお心遣いいただき、厚くお礼申し上げます。  
報道でご承知のとおり今回の地震では、阿蘇も甚大な被害を受けましたが、幸いにも当坂梨会の職員は皆無事で、建物も数十箇所の修理箇所等ではありますが大きな被害から免れる事ができ、地震当初から通常診療を行なうことができました。しかし、自宅が全壊するなど大きな被害を受けた職員もあり、6ヶ月過ぎた現在も心のケアや生活再建を行なえるための支援を継続的に行なっています。  
今回、皆様から頂きました励ましのお言葉を糧に、職員全員が一丸となって阿蘇地域の医療・介護に貢献できる坂梨会として努力して参りますので、今後も尚一層のお引き立てをよろしくお願い申し上げます。  
甚だ略儀ではありますが取り急ぎご報告かたがたお見舞いのお礼を申し上げます。  
末筆ではありますが、皆様におかれましてはご自愛くださいませ。

謹白

平成 28 年 9 月 31 日  
医療法人社団坂梨会  
阿蘇温泉病院  
理事長 坂梨 嘉壽恵  
総院長 下村 貴文

拝啓

この度の熊本地震に際しましては、備蓄物資の不足が心配される中、早々に心温まる救護物資をお届けいただき、誠にありがとうございました。

みゆきの里には500名を超える入院入所者の皆様がおられますが、震災後は福祉避難所として介護が必要な地域の皆様延べ800名の受入も行いました。ご支援賜りました救護物資はこれらの皆様を支える貴重な物資として有効活用させていただいたところでございます。

震災から2か月が過ぎ、みゆきの里もようやく以前の状態に戻ってまいりました。これもひとえに日本医療法人協会様のご支援の賜物であると感謝申し上げます。

今後ともみゆきの里が医療・福祉・介護の連携する健康まちづくりの拠点となりますよう、引き続きのお力添えをよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、加納繁明会長様をはじめ日本医療法人協会の皆様の日々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、略儀ながら書面にて御礼申し上げます。

敬具

平成 28 年 7 月 1 日  
みゆきの里会長 富島 三貴

拝啓 一雨ごとに秋の訪れを感じるようになってまいりました。日本医療法人協会の会員様ならびに加納茂照会長様におかれましては、いよいよご社健のことと拝察いたします。私共には勿体ないほどのお見舞いを頂き、心より感謝申し上げます。

お陰様で6月1日に当グループの特別養護老人ホーム隔ノ丘荘の一區画に特別の許可を得て新しい診療所「上村ぬくもり診療所」を開業し、早3ヶ月半が経過致しました。

4月16日本震直後は裏山の崩落を随分心配し、閉院も一時考えざるを得ませんでした。すなわちこのような環境では診療継続不可能と判断、断腸の思いで全職員を解雇としました。しかし現時点で余震や大雨でも直上の崩落は割と緩やかにしか進行しないことが判明し、さらに国道57号線を含めた復旧対策を国の威信をかけて行うという声明も耳にしました。加えて避難所回りを行うにつれ、住民あるいは支援医療団からの要望として、いままでも私共が担ってきた救急医療、病棟医療、そして透析医療の復活が望まれています。熟考した結果、阿蘇立野病院の現地の再興を図ることを決意し、来春には一部その機能を復旧するべく動いているところです。

真心のこもった貴会によるご支援が、私共を通して地域住民の大いなる勇氣、志気を鼓舞することでこの南阿蘇地区のみならず熊本県の創造的復興のきっかけの一つになると確信しつつ、それがご返返しになると思っております。

阿蘇立野病院は未だ診療困難な状況ですが、必ずや現地再興し、これまでの約40年の歴史に優るとも劣らぬように阿蘇医療圏のお役に立てよう頑張る所存です。また、全日病学会 in 熊本でのシンポジウムではどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

とりあえず、お礼かたがたご報告させていただきます。

敬具

平成 28 年 9 月 31 日

医療法人社団坂梨会 理事長  
阿蘇立野病院、上村ぬくもり診療所 院長 上村晋一

ありがとうごさいます、 上村晋一  
日本医療法人協会様

一般社団法人 日本医療法人協会  
会長 加納 繁照 様

### お 礼

拝啓 初秋の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、この度は熊本地震被災に対し、貴会より過分なる見舞金をいただきまして誠に有難うございました。

今回の震災では、当院を含め県下の多数の医療機関において施設・設備等に甚大なる被害を受けました。発災当初、当院におきましても大変混乱した状況ではありましたが、貴会をはじめ各団体による医療及び物資の支援を頂く等、皆様方の多大なる支えにより、今日に至るまで診療が一度も中断することなく継続できたことに深く感謝しています。

震災より5か月経過しましたが、余震の回数は大幅に減少し、ようやく復旧復興に向けた計画を策定、実行できる状況となりました。今回いただきました見舞金は、その復旧復興に有効に活用させて頂きたく存じます。

まずは略儀ではございますが、書中にてお礼まで申し上げますとともに、今後の更なる貴会のご発展とご健勝をお祈り申し上げます。

敬具

平成28年9月15日

社会医療法人黎明会  
理事長 清水 寛



拝啓 時下、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。かねてより、当院の運営にご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、先日の熊本地震に際しましては、ご厚情あふれるお見舞い並びに義援金をお寄せ頂き、心より御礼申し上げます。

幸いにも大きな被害もなく、通常診療を再開する事が出来ました。これも皆様からのご支援によるものだと深く感謝致しております。感謝の気持ちを込めまして、ささやかではございますが、感謝状をお送りさせて頂きますので、ご笑納頂ければ幸いに存じます。

敬具

社会医療法人社団熊本丸田会  
熊本リハビリテーション病院  
院長 古閑博明



平成28年9月20日

一般社団法人日本医療法人協会  
会長 加納 繁照 様

社会医療法人雪の聖母会  
理事長 井手 義輝

謹啓 この度の「平成28年熊本地震」に際しましては災害見舞金をご惠贈賜り、心よりお礼申し上げます。

報道等で御承知のとおり、今回の地震は熊本県を中心に甚大な被害をもたらしました。当法人の所在地である福岡県久留米市は、4月16日の本震で震度5強を観測しました。患者様・職員は幸いにも皆無事でしたが、職員のなかには、熊本県・大分県に居住している家族・親族の家庭に大きな被害を受けた者もおります。建物設備につきましては、備品の損壊や壁面等の損傷はございましたが全体的に大きな被害はなく、診療及び患者受入体制に影響はございませんでした。

私共は、地震発生直後より、DMATの派遣や熊本市市民病院からの患者受入等、様々な形で支援を実施して参りました。この度の皆様からの温かな御心遣いに感謝しながら、「常に弱い人のもとへ行き、常に弱い人と歩む」というカトリックの愛の精神のもと、より一層、地域の為に努めていきたいと存じます。今後ともお力添えを賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

まずは書中にて御報告かたがたお見舞いの御礼を申し上げます。

謹白

拝啓  
立夏の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は格別  
のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
この度の震災の際には、物資等ご支援を頂きまして、誠にありがとうございます。  
ございました。お礼が遅くなりましたことお詫言申し上げます。  
今回の震災では、当院の建物の一部損壊等ございましたが、復旧に  
向け、職員一丸となって、努力致しております。  
皆様の益々のご健康とご活躍をお祈り申し上げますとともに、引き続き、  
ご指導ご鞭撻の程、よろしくお願ひ申し上げます。  
敬具

二〇一六年五月二十三日

医療法人野尻会 理事長 野尻明弘  
熊本泌尿器科病院 院長 鍋倉康文

前略、この度の熊本地震に際しまして、心温まるお見舞いとお寄せ頂き、厚く御礼  
申し上げます。

今回の地震発生後は、ライフライン停止、一部設備が機能しない状況に見舞わ  
れましたが、身じりも患者様へ多大な被害は免れることが出来ました。お陰様で病  
院機能も元に戻り、施設設備につきましては、各方面の協力により完全復旧向け  
て進んでおります。

今後とも職員一同、地域医療福祉に貢献すべく頑張りたい所存です。  
変わらぬ指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

草々

平成二十八年九月

〒802-0904 熊本県中央区水前寺五丁目二・二二  
医療法人清和会 理事長 東野裕司

前略、この度当地を襲った熊本地震に際しましては、ご厚情あふれるお見  
舞いと励ましのお言葉をいただいたばかりか、過分なるご配慮をいただき  
厚く御礼申し上げます。  
報道でご承知のとおり今回の地震では、当地に甚大な被害をもたらしま  
した。幸いにも当院の患者様や職員は皆無事で、事業の継続に支障をきた  
すほどの被害はございませんでしたが、建物や外構は被害を受け、現在復  
旧に努めております。ご心配をおかけしておりますが、何卒この状況を耐  
耐いたいただきお願ひ致します。  
余震の心配がまだに続いておりましたが、一日も早い復興に向けて、職  
員全員が一丸となって努力しておりますので、これまで以上のご協力を賜  
りますようお願い致します。  
甚だ略儀ではありますが、まずはご報告かたがた支度物資ご提供の御礼を  
申し上げます。

平成二十八年六月

熊本県熊本市北区楠七丁目十五番一号  
医療法人 田中会 理事長 田中 英一  
武蔵ヶ丘病院 院長 榎子田 由史

関係各位

地震災害御礼

謹啓

平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
この度の熊本地震に際しましては、早速丁寧なお見舞いと励まし  
のお言葉並びに支度物資のご提供と共に、過分なるご配慮をいただ  
き厚く御礼申し上げます。

今回の地震では、吾城町や南阿蘇村などを中心に甚大な被害がみ  
られました。聖ヶ塔病院におきましても、施設内の壁にひびが入る、  
タイルが剥がれ落ちる等の一部破損がみられましたが入院患者さん  
においては大きな怪我も全く入院生活を返っていただきました。  
また、職員の大車が被災し、避難所生活や車中泊を強要する状況の  
中で、医療活動を続けてまいりました。震災から二カ月以上が経過  
し、まだ尚余震が続いており警戒している状況ではございますが、  
徐々に平常業務を取り戻すことができてきました。

皆様には、大変なご心配とご迷惑をおかけいたしました。聖十字  
会の聖ヶ塔病院と西日本病院の両施設が心をひとつにし、皆様の協  
力とご支援で今回の地震災害を乗り越えていきたいと思っております。職  
員一同、より一層がんばる所存でございますので、今後とも引き続き  
ご支援の程お願ひ申し上げます。  
本学会がら、皆様のますますのご発展を祈念申し上げます。ご支援へ  
の感謝とお礼に代えさせていただきます。

謹言

平成28年6月吉日

医療法人財團 聖十字会  
聖ヶ塔病院  
会長 永永 英一  
理事長 本本 英一  
院長 定本 恒明



【支援物資集積場所・モニター写真】

(青磁野リハビリテーション病院・ファインテラスせいじの)



(福岡県医師会)



(熊本市医師会駐車場)



## 第5. 被害調査結果報告

### 1. 熊本地震の被害状況に係る緊急電話調査の実施

平成28年4月16日午前1時25分頃、熊本県・大分県を中心に最大震度7の地震が発生した。既に4月14日の地震発生時にて被害調査を行っていたが、より正確かつ最新の情報を得るべくFAXではなく電話にて被害状況の聞き取り調査を熊本県の全日病及び医法協の会員病院に実施した。

#### 【調査結果 概要】

調査客体：全日病会員（全日病と医法協の両方に所属する会員を含む） 75 病院  
医法協会会員（医法協のみに所属する会員） 27 病院

回答件数：全日病会員 75 病院（被害有 36 病院・被害無 39 病院）  
医法協会会員 27 病院（被害有 13 病院・被害無 10 病院・音信不通 4 病院）

#### 【主な被害状況】

建物に大きな被害はなく早急な避難の必要性はない、との回答が多かったが、水道管の破損といったライフラインの被害が多く報告された。また、水や食料の備蓄については、県や市に対して支援を要請しているが目途が立っていない、という現場の声を受け、支援物資の緊急搬送等を行った。

### 2. 大分県の会員病院への被害状況調査の実施

上記1の地震について、大分県の会員病院の被害状況を調査するため、FAXによる調査を実施した。

#### 【調査結果 概要】

調査客体：49 病院（大分県会員病院）  
回答件数：49 病院  
回収率：100.0%

#### 【主な被害状況】

地震に係る被害ありと回答した会員病院は4病院であった。

被害内容は、いずれも建物・医療機器等の一部破損であった。ライフラインに影響があったと回答した病院は無く、職員等が被害にあったと回答した病院は2病院であった。

### 3. 熊本地震に係る被害状況調査の実施

熊本地震に係る詳細な被害状況を把握するべく、5月10日時点での被害状況をFAXにて調査した。

#### 【調査結果 概要】

調査客体：77病院（熊本県全日病会員病院）

回答件数：77病院

回収率：100.0%

#### 【主な被害状況】

被害ありと回答した病院は58件（うち2件は閉院）、被害なしと回答した病院は19病院であった。

建物の壁のヒビ割れやタイルが剥がれたといった報告が多数寄せられ、それらの修繕費用については現在、見積り等を請求中との回答が多かった。また、職員数については震災前、震災後と比較した場合、人数に増減のない病院が多かった。

## 第6．義援金・見舞金等報告

### 1．特定非営利活動法人ピープルズ・ホープ・ジャパン（PHJ）からの義援金贈呈

平成28年7月15日（金）に全日本病院協会会長室において、特定非営利活動法人ピープルズ・ホープ・ジャパン理事長の小田 晋吾様から全日本病院協会の西澤会長に対し、平成28年熊本地震に対する義援金1,200万円の目録が手渡された。



## 2. 全日病会員病院等からの義援金等

平成 28 年 4 月 21 日より同年 12 月 31 日まで全日本病院協会ホームページ等において、熊本地震への義援金の受付を行った。

●義援金の総額 23,332,270 円

※うち PHJ による義援金 12,000,000 円

上記義援金は、熊本県及び大分県の全日病会員被災病院（59 病院）へ被害状況に応じて寄付した。

併せて、上記被災病院に対して平成 28 年度年会費を免除するとともに、その内、人間ドック会員である 6 病院については、平成 28 年度人間ドック年会費についても免除した。

## 3. 医法協会員法人への見舞金等

震度 5 以上を記録した日本医療法人協会会員に本部より被災報告をご依頼した。報告結果を踏まえ、被災額が 100 万円以上だった熊本県及び福岡県、大分県の医法協被災法人（44 法人）へ慶弔規程に基づき災害見舞金の支給を行なうと共に、平成 28 年度会費の免除を行なった。



## 第7. その他

### 1. 熊本県知事からの感謝状贈呈

熊本地震に係る両協会の支援活動について、下記のとおり感謝状贈呈式が行われ、熊本県知事より感謝状をいただいた。

- ①日 時 平成28年11月16日（水）13時～14時20分
- ②場 所 ホテル熊本テルサ 3階 たい樹
- ③出席者 （全日本病院協会）織田正道副会長  
（日本医療法人協会）金澤知徳常務理事

#### 【贈呈式写真】

